

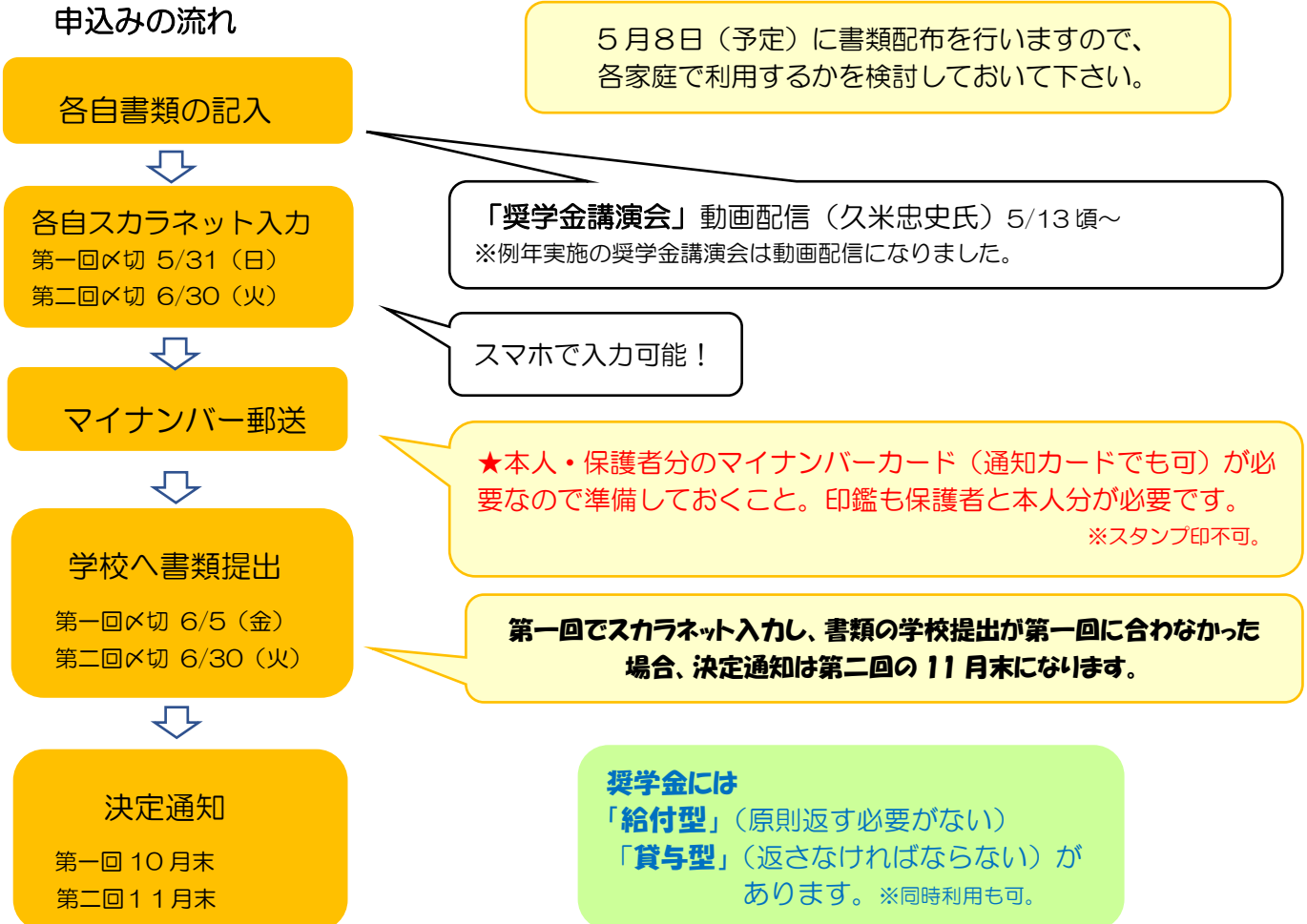


## 進学のための奨学金について①

### 日本学生支援機構の予約奨学金の手続きのスケジュールについて

高校での募集は5月・6月(予備)の2回です。出来るだけ第一回目で申し込むよう早めに書類確認をお願いします  
(日程は変更になる可能性もあります)

#### 申込みの流れ



#### 今やること

どちらも全員が対象ではありません。それぞれ学力基準・家計基準があります。  
資料やサイト等でしっかり勉強しておいて下さい。

- ① 進学にかかる費用(学費+生活費)の合計を出す。
- ② 自分が給付対象か調べる。
- ③ 進学先が給付対象校か調べる。
- ④ 貸与も必要なら、金額を検討する。

\*日本学生支援機構の奨学金は、進学後に申し込むことも、進学後金額を変更することも可能です。

#### 参考サイト :必ず見ておくように!

★ 文部科学省ホームページ「給付奨学金対象校リスト」「新制度について」

<https://www.mext.go.jp/kyufu/student/koukou.html>

★ 日本学生支援機構ホームページ(奨学金)

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

★ どの奨学金が対象か分かる「進学資金シミュレーター」

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

## 進学のための奨学金について②

## 給付奨学金と減免制度について



進学の際に最も多く利用されている奨学金は、国が運営する**日本学生支援機構**の奨学金です。

### ●奨学金には

「**給付型**」（原則返す必要がない）と「**貸与型**」（返さなければならない）があります。※同時利用も可。

今年度から新支援制度が始まり、給付型奨学金対象者は**授業料・入学金も減免対象**になっています。

日本学生支援機構の  
**給付型奨学金**

「**給付型奨学金**」 + 「**授業料・入学金も減免**」

セット



**対象校は？** 認定を受けた**大学・短大・高専・専門**

対象校リスト

現在大学・短大は 97%・専門は 62%が対象校。

<https://www.mext.go.jp/kyufu/student/koukou.html>

**対象になる生徒は？**

- **世帯収入の要件を満たしていること** 「住民税非課税世帯」や「それに準ずる世帯」
- **評定3.5以上** それ以下の生徒は、レポート等で意欲を評価

※進学後にしっかり勉強しなかった場合には、支援の打ち切りや返還が求められます。

**どれくらいの支援？**

**世帯収入に応じた3段階の基準**で支援額が決まります。

### ●給付奨学金の支援額

（住民税非課税世帯＜第Ⅰ区分＞の場合）

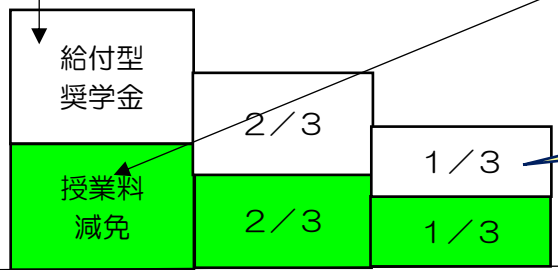
大学・短大 専門学校	国公立	私立
自宅	29200円 (年約35万)	38300円 (年約46万)
自宅外	66700円 (年約80万)	75800円 (年約91万)

### ●授業料等の減免の上限年額

（住民税非課税世帯＜第Ⅰ区分＞の場合）

	国公立		私立	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学	約28万円	約54万円	約26万円	約70万円
短大	約17万円	約39万円	約25万円	約62万円
専門学校	約7万円	約17万円	約16万円	約59万円

図1



準ずる世帯の学生には住民税非課税世帯の2/3又は1/3を支援

両親・本人・中学生の家族4人世帯の場合の目安。※基準を満たす世帯年収は家族構成により異なる。

自分が支援の対象になるか調べてみよう！

進学資金シミュレーター

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

# 進学のための奨学金について③

## 貸与奨学金について



貸与奨学金には無利子と有利子のものがあります。それぞれ家計基準や学力基準があるので確認を！

貸与奨学金の種類	基準		金額
	家計	学力	
貸与型奨学金 <b>第一種</b> 無利子	表①参照	評定 <b>3.5 以上</b> ※住民税非課税世帯・生活保護世帯・児童養護施設在籍者等はそれ以下でも利用可	月2～6.4万 (学校種別で金額指定) 表②参照
貸与型奨学金 <b>第二種</b> 有利子	表①参照	学業成績が学校の平均水準以上 *本校は <b>2.6 以上</b> が目安	月2～12万 (1万単位で選択)
入学特別増額貸与奨学金 <b>有利子</b>	*一種か二種を利用する人対象 *年収の制限が厳しいので、利用出来ない場合もある。		入学後一時金 10～50万 (10万単位で選択)

※ 学位（学士号）取得を目的として海外の大学に進学する者も、進学先が審査に通過すれば第二種の奨学金が利用可。

※ 最新利率 0.002%（利率見直し方式）

**表① 収入・所得の上限額の目安**

世帯人数	世帯構成	給与所得者の世帯 年間の収入金額			給与所得者以外の世帯 年間の所得金額		
		第一種	第二種	併用貸与	第一種	第二種	併用貸与
2人	本人、親①	779	1036	707	371	628	321
3人	本人、親①、親②（無収入）	657	1009	599	286	601	245
4人	本人、親①、親②（無収入）、中学生	747	1100	686	349	692	306
5人	本人、親①、親②（無収入）、中学生、小学生	922	1300	884	514	892	476

※併用貸与とは第一種と第二種の両方の貸与を受けることです。

※上記は目安です。上記を上回っていても、特別控除等により基準を満たす可能性があります。

※収入は2019年1月～12月のもの（マイナンバーで確認される）。

**表② 第一種奨学金貸与額**

第一種奨学金	大学				短期大学・専修学校（専門課程）			
	国公立		私立		国公立		私立	
	自宅	自宅外	自宅	自宅外	自宅	自宅外	自宅	自宅外
最高月額	45000	51000	54000	64000	45000	51000	53000	60000
最高月額以外の月額		40000	40000	40000		40000	40000	40000
	30000	30000	30000	30000	30000	30000	30000	30000
	20000	20000	20000	20000	20000	20000	20000	20000

※「最高月額」の利用は第一種・第二種の併用貸与の家計基準を満たす必要がある。

※給付対象の生徒は、第一種の利用に制限がある。表③

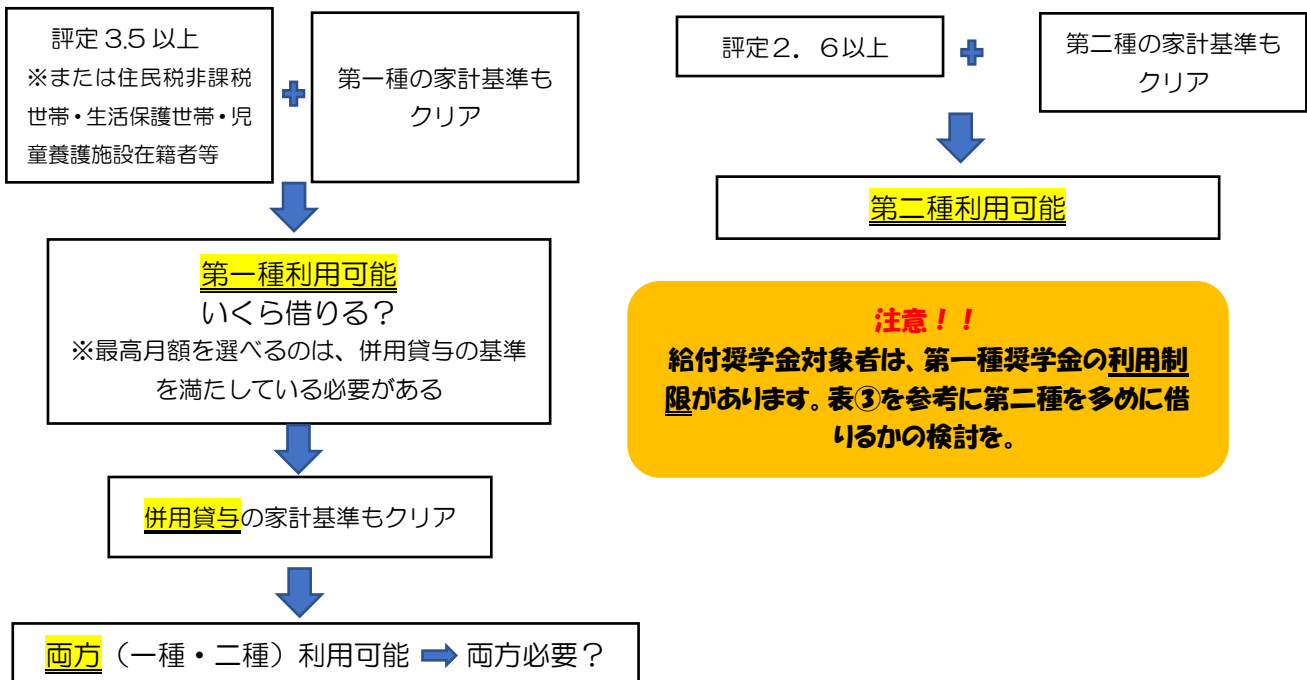
**表③ 給付対象者の第一種奨学金の貸与月額**

		国公立		私立	
		自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学
大学	第一区分	0円	0円	0円	0円
	第二区分	0円	0円	0円	0円
	第三区分	20300円	13800円	21700円	19200円
短大	第一区分	0円	0円	0円	0円
	第二区分	3800円	0円	0円	0円
	第三区分	24300円	17800円	22900円	17400円
専修学校 (専門課程)	第一区分	1900円	0円	0円	0円
	第二区分	16200円	0円	0円	0円
	第三区分	20000円 または 30500円	24000円	23800円	18300円

## 奨学金フローチャート

①自分<sup>は</sup>給付対象？いくら給付・減免される？ → サイトでシミュレーションを！

②貸与も必要？ 一種？二種のみ？両方？ 入学時特別増額も必要？



**奨学金はややこしい！！** しかし、お金を借りる際は、色々と考えなければいけないのは当然。

しかし、朗報！！

今回は奨学金の予約で、本契約は入学後です。その際、金額変更が可能。採用通知の結果（給付がいくら等）を見て、入学の際、貸与額を変更することが可能！！

※ 入学後、貸与額の変更は可能だが、一種・二種の変更はできないので注意！

両方申し込み、一部キャンセル、奨学金全部をキャンセル可。

※ 給付奨学金は誰でも申し込める。対象でなければ給付は不採用と通知が来ます。

## 注意点！！

- ①奨学金は進学後5月頃から月々給付・貸与が始まります。入学特別増額貸与奨学金も5月頃振り込まれます。しかし、入学時納入金（入学金+前期授業料+その他会費）は合格後1週間以内に支払わないといけない学校が多いので、奨学金以外で準備しないといけない。
- ②授業料等減免対象者も、一度入学時納入金を納め、入学後還付する学校が多いので要注意。  
※学校によって対応が異なる可能性もあるので、各自問い合わせを。  
※納入期限が遅い一般入試受験者等は「ろうきんの入学時必要資金融資」を利用可能な場合もある。
- ③奨学金は返済が出来なくなると遅滞金の発生、個人情報信用機関への登録（他のローンを組むことが難しくなる）、自己破産にまで発展します。

平成29年の自己破産の件数 → 2009件！！



### 大切なこと……

「進学先でしっかり学び、就職をする」という決意と

「よく考えて進路先を決定すること！」

**奨学金は生徒本人が契約するものです。そのため、生徒自身もしっかり内容を理解することが大切です。しかし、手続きが難しいので、必ず保護者と一緒に手続きを行うようお願いします。**

★ 前原高校 進路部奨学金担当 喜友名 098-973-3249

★ 日本学生支援機構奨学金相談センター 0570-666-301(月～金 9時～20時)

※毎年約200名が申し込むため、問い合わせはしっかり調べ、それでも分からなかった場合のみにするようご協力お願い致します。